



持続可能で利用しやすい地域公共交通の確立について



小林 淳一（令和研究会）

2024年問題とは、の高い依存度が顕著となつてい。地域公共交通計画の再編に当たり、この傾向を受け止め、つづ、自家用車の利用ができない高齢者の方や障がい者の方などを初めとする交通弱者の移動手段を確保すること。また、交通空白地域の解消とともに、幅広い世代に気軽に利用してもらえよう。既存の公共交通を補完する持続可能な地域公共交通計画を確立することを念頭に置いている。

問 地域公共交通の再編を考える上で、前提となる条件を明確にすることが重要である。例として、車社会のままで良いのか。または、車社会から抜け出す方向であるのかということは、施策の進め方に影響すると考える。どのような前提条件の下で、地域公共交通を考えているのか。

答 行田市地域公共交通計画の策定に当たり、令和4年度に実施した公共交通に関する市民アンケートなどの結果から、市民の方々の自家用車へ



公共交通の再編（デマンドタクシー事業等）



梁瀬 里司（令和研究会）

問 現在の市内循環バスやデマンドタクシー事業など、市民要望等を踏まえ公共交通を再編することだが、要望が多い近隣市への利用は、どのように考えているのか。

答 近隣市への施設利用については、乗り入れ施設の所在自治体との協議が必要であるため、現時点では未定であるが、まずは、市民の皆さんが多く利用されている近隣市の二次救急医療機関への乗り入れから検討したい。

問 狂犬病の予防注射を受けていない犬による噛みつきなど、人にけがをさせる事件が発生している。狂犬病は、発症すると致死率100%という恐ろしい病気で、飼い主には自治体への犬の登録と毎年1回の狂犬病の予防注射が義務付けられているが、本市の狂犬病予

問 現在の市内循環バスやデマンドタクシー事業など、市民要望等を踏まえ公共交通を再編することだが、要望が多い近隣市への利用は、どのように考えているのか。

答 WHO世界保健機関は、狂犬病のまん延防止のため、接種率70%以上を保つこととしているが、本市の接種率についてどう考えているのか。

問 狂犬病の予防注射を受けていない犬による噛みつきなど、人にけがをさせる事件が発生している。狂犬病は、発症すると致死率100%という恐ろしい病気で、飼い主には自治体への犬の登録と毎年1回の狂犬病の予防注射が義務付けられているが、本市の狂犬病予



古代蓮の里展望タワー／行田タワーについて



福島 ともお（令和研究会）

問 本市が深く関わっている「翔んで埼玉」琵琶湖より愛をこめて」が昨年11月から公開された。この中で非常に重要な役目を果たすのが、古代蓮の里展望タワー、またの名を行田タワーである。田んぼアートや小針周辺の景色を上から眺めるものになっているが、下から上を見た時、行田タワーもしくは埼玉県名発祥の地などとタワー本体に大きく表示してはどうか。

答 ネーミングライツは新たな財源確保につながるだけでなく企業と連携した地域活性化の取組も期待できることから、先進事例等を調査したい。

問 全日本タワー協議会というものがある。東京タワー、横浜マリンタワー、京都タワー、通天閣、五稜郭タワーなど19のタワーによって構成されている。本協議会に加入する可能性はあるか。

問 令和3年3月定例会の一般質問の際、市内公共施設へのネーミングラ